第五章　明室の末路

三案の黨議　斯く神宗以來、內には朋黨の軋轢ありて外邊防に暇あらざりしか熹宗の時に及ひて三案の議起れり神宗の末年張差と云ふもの棗木棍を持して東宮に闖入し內官を打傷す當時張差の擧は鄭貴妃、及、其弟國忠の意を受け太子を弑し貴妃の子福王を立てんとするの意に出つとの流言ありしか神宗、其事を追咎せす惟、張差、及、其徒一二人を誅せしのみ是に至り其議大に起る是を挺擊の案とす神宗崩し光宗の立つや鄭貴妃は選侍李氏の尤も光宗の寵を得るに乘し之を立てゝ皇后とし己、亦、皇太皇たらんと欲せしか其議遂に調はす光宗紅丸を服して崩せるを以て嫌疑、又、起れり是を紅丸の案とす光宗の崩するや李氏は閹豎李

挺擊の案

紅丸の案

賢忠を以て腹心と爲し共に熹宗を挾みて自ら重せんと謀り遂に熹宗を文華殿に卽位せしむ時に李氏は乾清宮に居りしか是に至り左斗光は上疏して曰く內廷の乾清宮ある

移宮の案

は猶、外廷の皇極殿あるか如し皇上、天を御するもの此に居る今李氏生母にもあらすして儼然正宮に居るへからすと遂に仁壽殿に移れり是を移宮の案とす

東林の貶黜及魏賢忠の專恣

東林派は左光斗に贊し移宮の事を以て是と爲し挺擊、紅丸二疑案を非とし追論辨詰して止まさりしか當時、帝は私かに其乳母王氏を寵す魏賢忠、因て亦、王氏に親み政柄を弄し其徒、王安、及、前朝顧問の臣を暗殺し又、宮人張氏を幽し趙氏を殺し其罪惡を蔽ひ且、東廠を設け己を毀るものを譏刺し大學士魏廣微、御史崔呈秀等と謀り東林の徒を以て姦黨と爲し天下の講書院を毀ち鄒元標、葉白高、趙南星、楊漣、左光斗

等の徒を誅斥し己の生祠を建て其功德を天下に頌せしむるに至れり

滿洲の形勢　當時滿洲、太祖は神宗以來瀋陽（盛京省奉天府承德縣治）遼陽（盛京省奉天府遼陽州府）を陷れたりしか是に及ひ貝勒諸臣に謂つて曰く遼陽は明、蒙古、朝鮮と壤を接する要區なれは此に據らさるへからすと遂に徙り尋て瀋陽に都せり其疆域、東は朝鮮に接し北は黑龍江（アムール）より南は黃海に及ひ西、遼河に至る太祖壽六十八を以て崩し（帝の天啓七年我寛永四年）其子太宗立

滿洲の遷都

清太祖肖像

（イブトアールトシーヌ）

つ雄武父に襲き蒙古の遺裔を掃蕩し屢、明兵を破り大に南方を蠶食せんとせり又、山東の徐鴻儒、及、貴州の安邦彥、四川の奢崇明等反を謀り尋ひて顏振泉は倭寇逃殘者、及、鄭芝龍の徒と臺灣に據り閩、廣、沿海の間を出沒侵掠し國家日に爭擾を極めたり

顏振泉鄭芝龍

帝在位八年壽二十三にして崩し弟毅宗立つ時に我紀元二千二百八十八年後水尾天皇寛永五年なり此歲、我、濱田彌兵衛と云ふもの臺灣に至り蘭人をして畏服せしむ又、臺灣人理加と云ふもの我、德川幕府に來見せしと云ふ

濱田彌兵衛及理加

流賊の蜂起　毅宗、位に即きて權官魏忠賢、及、其黨與を誅し廷臣の宦侍に交るを戒め又、士庶、衣服の侈麗なるを禁し意を政治に致し朱燮元をして四川、貴州の亂賊を平けしめ吳三桂をして滿州を遼東に拒き尋て和を媾せしむ鄭芝龍

毅宗の政治

陝西の流賊

歸順し海氣稍、熄み天下一時、治らんとせしも遂に前代の弊に勝へす且、陝西饑え流賊、亦、大に蜂起するあり

府谷(陝西省榆林府)の人王嘉胤先つ亂を唱へ延安(陝西省延安府)の張獻忠尋て起り安塞(陝西省延安府安塞縣治)の高迎祥に應す迎祥自ら闖王と稱し山西に逼る米脂(陝西省延安府米脂縣)の人李自成、亦、闖王に屬せしか闖王死し尋て獻忠、亦、僵るゝに及ひて自ら其兵を領し四川、河南の地を席卷し遂に居庸關を破り關内の戰器巨礮を奪ひ京師を犯す帝乃ち公主及、后妃を殺し大監王承恩と對縊せり范景文、倪元璐、其他宮人の節に死するもの甚、多し

李自成京師を陷沒す

自成是に於て帝と稱し國を順と號し恣に明室の諸制度を改めり(我後水尾天皇正保元年清世祖順治元年)初、京師の危急なるや遼東、總兵吳三桂を召し還り援はしむ三桂、途に京師の陷沒を聞き清に降り援兵を乞ひ李自成を討せんとせり清は卽ち滿洲の

吳三桂清に降る

改號なり

清人の侵入　清は太宗即位以來、西、大同、宣府を陷れ東、錦州、天津に逼り朝鮮を服し北、蒙古の察哈爾林丹汗を征して元裔を掃蕩し遂に功臣を封し官制を定め其都瀋陽を改めて盛京と爲し赫圖阿剌を興京と稱し國を清と更め在位十七年壽五十二を以て崩せり(明の京師沒落の歲)其子世祖に及ひて叔父和碩睿親王多爾袞をして南進して明を伐たしむ多爾袞進みて遼河に至る會、李自成、京師を陷れ吳三桂來り援を乞ひしを以て世祖は之を援はしめたり

察哈爾の掃蕩及清の國號

多爾袞の南進

李自成の死　已にして李自成軍破れ西方、陝西に逃れ遂に野人の殺す所と爲る多爾袞是に於て京城に入り官民をして頭を剃り衣冠服飾悉く清俗に遵はしむ初、太宗は清人の衣冠、束髮、裹足の風を學ふを禁せしことありしか多爾袞、其遺意を奉し之

清の遷都及剃髮令

史可法の戰死及南京の陷沒

帝聿釗魯王以海

を實施せしむ明俗從はさるを以て後、復、之を弛へ遂に世祖をして都を此に徙さしむ今の帝京順天府是なり是に於て明の毅宗の兄福王由崧、南京に立ち弘光と改元せり是を帝由崧とす

明裔の南遷　初、南京の兵部尚書史可法は流賊李自成の亂を聞き北上せしか已に京師陷り清主の據る所と爲りしを以て由崧を南京に迎立し諸政を整理し恢復を謀れり多爾袞屈せす清兵を揚州に拒きて戰死し廷臣踵を接して降り帝、亦、出奔して清兵の獲る所と爲る

此の時太祖の裔、唐王聿釗は福州（福建省福州府）に在りしか南京陷るを以て黃道周、鄭芝龍、何楷の徒、擁立して隆武と改元せり是を帝聿釗とす又、太祖十世の孫、魯王以海は紹興（浙江省紹興府）にありしか鄭遵憲、張國維等、之を台州（浙江省台州府）に迎立せり時に

聿釗由榔

術桂以海

世祖は剃髮の令を下し諸將虐を恣にし江南の民をして怨望せしめしか已にしひ鄭芝龍出て、清に降り帝（聿釗）亦、出奔して汀州（福建汀州府長汀縣治）に崩し以海逃れて海に航するを以て江南一帶の地まて悉く清人の占領する所と爲れり是より先、帝聿釗の弟唐王聿釗は帝の崩せしを以て蘇觀生、顧元鏡等に擁立せられ廣州（廣東省廣州府）にありて紹武と改元し又瞿式耜、丁魁楚等は神宗の嫡孫桂王由榔を奉して肇慶（廣東省肇慶府）に據りて永曆と改元せしか遂に清人の破る所と爲り雲南に逃る聿釗、亦、事破れて執へらる是より先、宣宗の裔寧靖王術桂は荊州に封せられ、戰亂を避け漂浪したりしか是に至り魯王以海と共に厦門（福建省厦門）に到り鄭成功に因るあり

鄭氏の義擧　鄭成功、初名は森、一に福松、字は大木、鄭芝龍の長子、母は我、肥前平戸田川氏の女、成功は肥前平戸河内浦

成功の經歷

に生れ七歳、父に從ひ歸り後、又、母を迎へ共に安平（福建省泉州府治）に居る年十五、大學に入る廿二にして帝聿釗の知を受け姓を朱と賜ひ成功と改む是より中外、皆、國姓爺と稱して名はさるに至る成功、天資、忠孝屢、父の清に通せんとするを諫め又、母の清兵に圍まれて自殺し、帝（聿釗）の執はれしを悲み慨然儒服を焚き遂に義兵を安平に擧げて清兵を苦しめ又、南京を恢復せんと欲し屢、救を我、德川氏に乞ふ德川氏報せず尋ひて厦門に據り改めて思明洲と爲す時に魯王來り軍氣大に震ふ帝由榔、其忠を聞き使を遣はし成功を延平郡王に封す（永曆十二年我萬治元年）成功、兵を起してより是に至るまで十三年なり成功、感激、遂に南京を攻む戰破れ蘭人を降し臺灣に據る（永曆十六年清聖祖康熙元年）時に清主世祖崩し子聖祖立ち明の降將吳三桂をして帝由榔を攻めしむ由榔、雲南より逃れて緬甸にあ

成功援兵を德川氏に乞ふ

成功臺灣に據る

由榔魯王の死及成功の死

朱之瑜及朝侯宗の徒

官制

りしか是に至り吳三桂の爲めに殺され魯王、亦已に崩するを以て成功憤惋遂に疾て卒す年實に三十有九（康熙元年我寛文元年）其子鄭經、遺志を紹き舊臣を撫〳〵清に抗す初め朱之瑜と云ふもの成功に見え共に事を爲さんと爲せしか意合はすして我國に逃れ來る其他、侯方域、顧炎武、黃宗義、魏禧の徒、皆、一世の大儒を以て清に仕へすして身を終れり明は太祖より帝由榔に至るまて十世二百九十六年我、紀元二千三百二十三年を以て滅亡したり

第二編　清

第一章　聖祖の偉略

聖祖の諸政　聖祖、外、己に明室を僵し天下を一統し內、諸政に意を致したり朝廷の官制は明の舊に則り大學士（四人）協

辨大學士(三人)をして樞機を贊理し其他、禮、戶、吏、兵、刑、工の六部、尚書侍郎、郎中等の官を置き之を分掌せしめ又、都察院、通政使司、翰林院、大理、大僕、光祿、鴻臚の諸寺、及國子監、欽天監の部局を設け滿人、漢人並ひ任せしむ然れとも京官は滿人のみ之に充つるを例とせり

兵制は太祖の創制に從ひ八旗、綠旗の制とし京師を守るを禁旅八旗と爲し地方を守るを駐防八旗と稱す但し綠旗は漢人を以て編成せるものとす其他、租徭選擧の法を更め最も力を文化に致し學術盛に行はるあり

學校は京師より地方に至るまて有らさるは無し聖諭を頒布して人材を敎育し四庫館を開きて儒臣を尙ひ遺書を天下に求め淵鑑類函、康熙字典、佩文韵府、子史精華、欽定四書、十五省通志等の書籍を編纂せり閻若璩、顧祖禹、梅文鼎、毛際可、

朱彝尊、成德、萬斯大等の諸儒輩出せり又、明の西僧利瑪竇等を用ひし例に倣ひ其徒、湯若望、南懷仁等をして欽天監と爲し天文を考察せしめたり帝、天資學を嗜み經史詩文に通す嘗て曰く朕十七八歲の時、讀書勞に過き血を喀くに至る然れとも肯て少〳〵も休ます老耄に及ひて手に卷を釋てすと其座右の聯句に曰く日月燈、江海油、風雷鼓板、天地第一番、戲場、堯舜旦、文武末、莽操淨丑、古今來許多脚色と

初め世祖は南直隸を改めて江南省と爲せしことありしか帝は江南を江蘇、安徽の二省と爲し湖廣を湖北、湖南に分ち陝西を分ちて甘肅省を置き京師(順天府)盛京(奉天府)の二京の外直隸(首府は保定)山東(濟南府)山西(太原府)河南(開封府)江蘇(江寧府)安徽(安慶府)江西(南昌府)福建(福州府)湖北(武昌府)湖南(長沙府)陝西(西安府)甘肅(蘭州府)四川(成都府)廣東(廣州府)廣西(桂林府)雲南(雲南府)貴州(貴陽府)の十八省あり

二京十八省及東三省の設置

又、奉天（康熙元年始めて遼東を設け四年に改む）寧古塔（康熙元年に置き十五年に吉林に移駐す）黑龍江を設く是を東三省とす當時三藩の叛亂するありて西南十省、其蹂躙する所と爲れり三藩とは雲南、吳三桂、福建、耿精忠、廣東、尚之信なり

尚可喜の撤藩

吳三桂耿精忠王輔

三藩の變亂　初め世祖は明の降將吳三桂を雲南に尚可喜を廣東に耿精忠を福建に封して南征の功を賞したりしか帝の時に至り尚可喜は年老ゆるを以て自ら藩籍を撤し遼東に歸老せんことを請ひしを以て帝は之を許し盡く藩兵を去らしむ吳三桂、自ら安せず毛髮を蓄へ衣冠を更め兵を擧けて叛し帝と稱し國を周と號し貴州、雲南の地を騷かせり耿精忠、亦、兵を擧けて反し數日の間に四川、福建の地、賦有に歸し又、陝西、王輔臣、之に應し漢中を陷れ勢、甚た猖獗なり精忠、又、閒かに鄭經に使し共に力を併せ清人を拒かんと

三藩の平定

澎湖島の陷沒

寧靖王の自殺

せしか後、隙を生し遂に降服して誅せらる尚可喜は三桂の招きに應せさりしか其子、之信、父を幽し三桂に通し後、歸服せり三桂、亦、死し其孫、世璠代り兵を領せしも忽ち破れて自殺し三藩の亂遂に平きたり

臺灣の平定　當時臺灣は鄭經死し次子克塽は劉國軒、馮錫範等に擁立せらる國軒、澎湖島を守り林陞、丘輝等の諸將をして雞籠嶼に於て清人を苦しむ已にして林陞、丘輝等戰死し餘衆、大抵、降り澎湖陷り國軒、馮錫範等、臺灣に逃れ還る清將施琅は曾て鄭成功の部將たりしか後、清に降り是に至り臺灣を攻め其降卒、及、傷者を送還し又、成功の廟に祭祀せしかは臺人大に動く時に寧靖王術桂は事の爲すへからさるを知り歎すらく余は明家の龍種、義、辱しむへからすと王印を克塽に授けて自殺す年六十二、克塽時に年十五なりし

成功の祀祭

鄭成功木像圖（寫眞）

か國軒等之を奉して降る帝克坎に漢軍公を授け之を優遇せり成功の臺灣を占據せしより二十三年にして明の朝亡ひたり是を康熙廿一年、我靈元天皇天和二年の事とす後、九年を歴て帝、成功の節義を稱し謂らく成功は明の遺臣、吾亂臣賊子にあらすと使者を遣はし成功、及、子經を其鄉南安（福建省泉州府南安縣）に

魯人侵略の始

露人の蠶食

歸葬し且、祠を建て之を祭らしめたりしか遂に今帝、卽位の初（光緒元年我明治四年）に及ひ臺灣に於ける成功の廟を祀り忠節と諡したり

露國の交渉　三藩、及、臺灣の平定せし後北、露國との關係起れり露國は初め太宗の世に於て伯給特（バクト）と云ふもの始めて勒那河（外興安嶺より北流して北海に注く）を下り（明毅宗崇禎五年西暦紀元千六百三十二年）尋て黑龍江（アムール）を探り遂に其北岸の雅克薩（阿留巴陳黑龍江上流）尼布楚（黑龍江の深流什爾喀の中流）に據り西伯利亞の各地を略取し其南は喀爾喀（チョツチンハン）より外蒙古の車臣汗、土謝圖汗（チヤツト）に及へり太宗は兵を遣はし（明毅宗崇禎十年西暦紀元千六百三十七年）之を逐はしめしも兵食繼かすして半途にして歸りしか帝は愛琿（黑龍江沿岸黑龍江城）に城き其侵掠に備へたりしも後、次第に黑龍江東北の地を蠶食せしかは帝之を恐れ彭春、薩布楚布等をして水陸兩路より進

雅克薩の陷沒

尼布楚の條約

義布蘭揑的士及領事館

んて雅克薩に向はしむ魯將圖爾布青戰死し城陷る是に於て其主察罕汗（即彼得第一世なり）は兀老尹費要多羅をして和を乞はしむ内大臣索額圖は兀老尹費要に尼布楚に會し條約を諦結す此時、素額圖は勒那河を以て疆界と爲さんとし兀老尹費要は黑龍江を以て定めんとせしか遂に露は悉く黑龍江下流の侵地を還へし外興安嶺を以て兩國の疆界と爲し又、黑龍江の上流に於ては格爾必齊河、及、額爾古納河を以て境と爲し兩國の行旅通行の便を開きたり是を支那の歐洲と條約を締結するの嚆矢とす（康熙廿八年西曆紀元一千六百八十九年我紀元二千三百七十九年）後露の使節義布蘭揑的士來り希臘教徒を派遣し且、教堂を京師に設けんことを請ひしを以て帝遂に之を許るし且、口糧を給せり（康熙五十一年）當時露國の商旅陸續京城に來るを以て領事館を京師に置くを許るし其監督を爲さしめしと云ふ

厄魯特の來歷及分離

噶爾丹の猖獗

噶爾丹親征第一

準夷の親征

露國の交渉已に終り西域の準噶爾部征伐の師起れるあり準噶爾部は韃靼の也先瓦剌汗より出てゝ西域に分散せるものを厄魯特と稱す其内分れて綽羅斯特、都爾伯特（額爾齊斯に居る）土爾扈特（雅爾即チ答爾巴哈台）和碩特（烏魯木齊新疆省廸化府）の四部に分る和碩特固始汗は明末に於て青海に據り綽羅斯特は伊犂に據りて喀爾喀と鄰り勢甚猖獗なりしか是に至り綽羅斯特死し其子僧格を歷て其孫索諾木、阿木阿拉布坦立ちたりしか僧格の弟噶爾丹之を襲殺し自ら準噶爾丹汗と稱し四部を領し又、青海、酋、車臣汗を殺し南方四部を蹂躪し遂に阿爾泰山に徙據し北方喀爾喀を攻めんとす其主土謝圖汗、及、東部主車臣汗、西部主扎薩克圖汗、皆、其やぶるゝ所と爲り東奔して降を乞へり帝、是に於て親征して烏蘭布通に戰ひ之を破り途に疾を以て博洽河より引き還れり

噶爾丹親征の第二

老胡の歌

既にして喀爾喀諸汗來り貢せしも噶爾丹は清の使者を殺し遂に克魯倫河（喀爾喀の東部車臣汗の境内其水流黑龍江に入る）に沿ふて下り侵掠して巴顏烏蘭に至り露國の鎗兵を借り内犯せんと聲言せしかは帝、又、親征して獨石口より瀚海を歷て北、賊豫め草地を焚き芻糧を絶ちて逃る大學士伊桑阿等、駕を回さんことを勸む帝怒りて曰く賊を見すして返る何を以て天下に對へんと遂に兵を率ゐ克魯倫河を濟り手つから陣圖を繪き方畧を指示す賊軍潰敗して去る帝、乃ち諸將を會し大に宴す一老胡あり筯に、工に漢語を能くす乃ち歌ふて雪花如血撲戰袍奪取黃河爲馬槽滅我名王兮虜我使歌我欲走兮無駱駝嗚呼黃河以北奈若何嗚呼北斗以南奈若何と帝大に笑ひ遂に諸將をして巴顏烏蘭の近地を搜討せしめて凱旋せり

噶爾丹親征の第三及其滅亡

初め噶爾丹の兄の子策妄阿拉布担は噶爾丹の父を殺せしこと土魯番に逃れ使を遣はし降を乞ひしを噶爾丹の侵掠に乘し伊犁の舊部に入り阿爾泰山以西を占領せしかは噶爾丹是に及ひて西、伊犁に歸らんと欲せは策妄阿拉布担の逼るあり南、烏斯藏は道、遠ふして至る能はす北露國に奔らんとするも露國受けす殊に帝は又、歸化城に來り青海諸汗に諭し策妄阿拉布担と力を協せ噶爾丹を禽獲せしめんとせしを以て噶爾丹の黨與、日に降り進退大に窮まり遂に自殺せり是に於て喀爾喀の西境千餘里の地を拓き狠居胥山に勒して振旅せり

西藏の蕩平　策妄阿拉布担は伊犁に據りし以來陽に馴眤すと雖も日に版圖を擴張し西域の大部落を領有す亦、噶爾丹の爲せし所に効ひ土爾扈特、和碩特の二大部を併せ西

策妄那布坦の猖獗及西藏の平定

朱一貴及猺苗

藏（和碩特の部分）に入り和碩特主拉藏汗、及其次子の青海に在るものを襲殺し西域を虐壓し勢、甚た猖獗なるを以て帝は諸將をして青海、四川の兩路より西藏に入らしむ蒙古の汗王貝勒は達賴喇嘛を奉して軍に從ふ策妄阿拉布担の軍途にして潰ゆ西藏に入る能はすして本國伊犂に還る帝因て衆望に從ひ達賴喇嘛を以て和碩汗と爲し拉藏汗の舊臣康濟鼐、及、頗羅鼐の二人をして前藏、後藏を分治せしめ西陲始めて平穩に歸せり當時臺灣の朱一貴、昆明の李天極、其他廣西、湖南の猺苗、叛せしも忽ち掃蕩せられたり帝在位六十一年壽六十九にして崩し（我紀元二千三百八十二年中御門天皇享保六年）改元して康熙と云ふ太子胤禎立つ是を世宗とす

第二章　高宗の紹熙

世宗の朝青海の騷擾

準夷策零の媾和

高宗の朝準夷の内亂

準夷の叛服

策妄阿拉布坦は伊犂に逃れ還り西藏底定せしも世宗の朝に及ひて青海の羅卜藏丹津（ラボツアンタンチン）の叛するありて羅卜藏丹津は和碩特固始汗の孫にて世宗の朝、噶爾丹の攻擊を被り來服せしか帝の時に及ひて異圖を懷き喇嘛僧を〻て部民を煽動して已に從はしめ兵を擧けて西寧地方に來犯せしかは帝は岳鍾琪、年羹堯等をして之を征し其の兵を破らしむ羅卜藏丹津、北走して準部の策妄阿拉布坦に依るあり已にして策妄阿拉布坦死し其子策零（チエリン）、狡黠にして兵を好み屢、邊疆を犯し勢、亦、猖獗なり帝、諸將をして之を征せしむ策零、和を請ふに及ひて北路は城を鄂爾昆（ヲルコン）河に築き要路は戍を哈密巴里坤に置き阿爾泰山を以て境界と爲し師を罷めたり

已にして帝崩し太子高宗の時に及ひ策零（チエリン）、亦、死〻準部亂れ

達瓦齊及羅卜丹津の執獲

たりしか策妄阿拉布坦の外孫阿睦爾撒納は策零の孫達瓦齊を擁立し己權を專にせしも諸部の服せざるを以て其徒、薩喇爾、及、碼木特等と來り降り備に伊犂の內亂取るべきの狀を言ふ帝乃ち意を決し班第をして定北將軍とし阿睦爾撒納を以て之に副とし北路より進ましめ永常をして定西將軍とし薩刺爾を以て副とし西路より進ましめ博羅搭拉河(伊犂の東北境)に會し伊犂河を濟らしむ達瓦齊、軍破れ南奔して回疆より烏什(庫車の西北境回疆の一都會)の城主霍吉斯に依りしか霍吉斯清將の意を受け之を執へ又、青海の叛賊羅卜丹津を獲て來獻し準夷平きしを以て諸將の戰功を賞し阿睦爾撒納に地を與へたり

阿睦爾撒納の叛

已にして阿睦爾撒納叛きて伊犂に據り駐防の士、斑第、鄂容安等の諸將を襲殺せしかは帝、更に策楞に命して之を征せ

準夷の平定

回部の來歷及布那敦兄弟準夷に質と爲る

しむ阿睦爾撒納、走りて哈薩克に入る諸將追擊して哈薩克に至る哈薩克汗已に來り通せしを以て阿睦爾撒納、逃れて露國の境に至り遂に痘に罹り死す是に於て成衰扎布に命して烏里雅蘇臺を鎭せしむ準部始めて平定に歸したり

回部の掃蕩　準部の亂後、又、回部の爭擾せるあり回部は天山南路にて元、太祖の次子察合台の子孫世、之を領し回教を奉したり回教は隋、唐に始まり元代に盛なりしか其祖國を天方(阿拉伯亞)と云ふ遠く葱嶺の西方に位し其國墨德(元史默德那に作る)墨克(元史墨伽に作る)の二國あり隋唐の際、其國王謨罕驀得と云ふもの盡く西域諸國を臣服し始めて自ら教旨を開きしより西域諸國之を奉せしめ清初に當り謨罕驀德の後裔瑪墨特と云ふもの墨德より葱嶺を越え東遷して喀什噶爾(新疆)に居る是に於て回部悉く瑪墨特に從へり後、準夷の强盛なる

布那敦庫車城に據る

雅里哈善の敗北及其誅戮

に値ひ元裔悉く天山以北に驅逐せられ瑪墨特の子孫なる布那敦（一に大和卓木と云ふ又博羅尻都に作る）霍集占（一に小和卓木と云ふ）の兄弟亦準夷に執はれて伊犂に質と爲り回部悉く其領する所と爲れり

後、準夷主達瓦齊の征伐せらるゝに及ひ帝はその兄布那敦を釋るし其舊地回部を統へしめ弟霍集占を伊犂に留めて回務を掌らしめたりしか阿睦爾撒納の叛するや霍集占、私かに之に通せり其兵破るゝに及ひ回部に還り布那敦に反を勸め庫車城に據り復、回部を從へしめたり時に庫車城主鄂對、惟り之に應せさりしを以て其親族斬戮せられしかは鄂對怒り來り狀を告く帝乃ち雅里哈善を以て靖逆將軍と爲し漢滿の兵を率ゐ鄂對等と吐魯番（甘肅省鎮西府）より進んで庫車を攻めしむ雅里哈善、備を怠り終日奕棋し戰利あらす帝

布那敦兄弟の斬戮及回部の鎮定

震怒して雅里哈善を誅戮せり時に將軍兆惠と云ふもの準部、復爭擾せしを以て之を征服したりしか是に至り自ら軍を留め西事を竢らんと請ひ遂に南下して回部に向へり霍集占乃ち葉爾羌に奔り布那敦は喀什噶爾に逃る兆惠は副將富春をして餘賊を勦せしめ葉爾羌に向ひ兵を遣はし喀什噶爾の援路を扼す賦兵慓悍善く戰ふ富春來り葉爾羌河を濟り兆惠と合す布那敦兄弟、遂に西走して葱嶺を越え敖罕（葱嶺以西の回國）に依らんとす納られすして乃ち巴達克山（葱嶺西南の回國）に走る其酋素爾坦沙と云ふもの布那敦兄弟を斬りて來獻し回部始めて一走し葱嶺以西の諸部皆來廷せり因て喀什噶爾を以て參贊大臣建牙の所と爲し南路を管し辦事大臣領隊大臣を置きて之を分治せしめたり

烏什の變亂　初め準夷達瓦齊の敗北して回部烏什に依ら

阿布都の暴虐

葉依木

んとするや其酋霍吉斯は之を俘にし來獻し封爵を受けたりしか布那敦兄弟の亂に及ひて頗る兩端を持せしを以て之を召して入京せしめ哈密の阿布都拉を以て烏什を治めしむ阿布都拉暴戾にして兵民を虐使し辨事大臣蘇成亦酗暴、事を治めす部民怨望して亂を作す阿克蘇、辨事大臣卞塔海、之を聞き兵を率ひ烏什に赴き遂に其破らるゝ所と爲る時に鄂對の妻葉依木は葉爾羌に在りしか其子鄂斯の庫車にありて賊に應せんを恐れ諸將士に酒を飲ましめ責むるに忠義利害を以てして陰かに人をして其營に赴き兵器戎馬を縱ち賊に與みする能はさらしむ伊犂將軍明瑞進んで烏什城に薄り遂に其亂を平け西北諸國、悉く底定したり

西南の戡定　西北諸國、底定するに及ひて更に師を西南に出し緬甸を征せり緬甸は當時雍籍牙と云ふ者其主麻考

緬甸の征伐

安南征伐

租を弑し自立して邊境を犯せしを以て明瑞、傅恒等をして之を征し金砂江に破り其侵地を還さしめて和を許せり已にして金川、安撫使莎羅奔叛けり金川は金砂江の上流に位し地勢頗る險要なり羅奔、險を負み近隣を犯す傅恒、岳鍾琪等之を征服せしも羅奔の姪、郎卞、及、其子索諾木は僧桑格と又、兵を擧け反抗したりしか溫福、桂林の諸將之を征服せり尋て又、安南の役あり

安南は國初以來入貢したりしか當時其主犂維祁の臣阮惠と云ふもの僭立せしかは犂氏之を訴へしを以て孫士毅を遣はし阮惠を討ち維祁を復位せしむ已にして阮惠、不德を以て衆人に厭はれしかは阮惠之に乘し又、叛立して東京王と稱せしか遂に清の來擊を畏れ降を請ひしを以て封册を允るしたり安南の師に尋て西方廓爾喀征伐の師起れり

廓爾喀征伐

英國の應援

廓爾喀は西藏の西南喜馬拉耶山の南北に居住せしか當時漸く西藏、印度の地方を掠奪し又、後藏に入犯して西境を驗し達剌、班禪の兩大喇嘛來り急を告くるを以て海蘭察、福康安等をして之を征せしむ賊勢猖獗、善く戰ふ福康安、乃ち孟加臘に檄して夾攻せん事を約す孟加臘は印度の地にて久しく英國に屬したり英國は明の中葉已に印度に來り互市を通したりしか是に至り其兵艦、亦遙に應援し賊を擊たんとせり賊之を聞き遂に降服せり乃ち漢、蒙古の兵を留めて西藏を戍らしむ是を駐藏兵の始とす英國、亦使を遣はし嗣後、亦、西洋の兵を需用する事あれは力を致さんと言へり

高宗の內治　帝、武略を以て四方を鎭服し內、意を制度文物に致し清初以來の諸政を釐正し治平を致したり嘗て曰く我滿洲は騎射國語を以て根本と爲す必す漢人の文義、蒙

軍機大臣

文學の旺盛

古の經典を知らんと欲せは十餘載の力を殫すに非らされは能はす何の暇ありて騎射を精ふし武備を習はんやとて力を軍政に用ひたり初め世祖の時、軍機大臣を置き大學士尙書より選任せしか帝の時に至り之を重んして軍機百般の事を總理せしめたるを以て內閣大臣は其權輕く詔勅傳宣を掌どるに過きさるのみにして軍機大臣をして百般の事を總理せしめ軍機處をして總理處と更むるに至れり文學は聖祖以來益盛にして帝の世に於て皇朝三通、大清一統志、大清會典、四庫全書提要、明史、通鑑輯覽等の編纂あり又、儒臣をして十三經を挍勘し石に刻せしめ西域圖志館を開き古今地名の沿革を考察せしめたり當時經學には錢大昕、焦循、惠棟、盧文弨、孫星衍等あり史學には趙翼、王鳴盛、徐乾學等あり方苞、沉德潛、袁枚、劉大櫆、姚鼐の徒は文章を以て稱せ

鴉片販賣の禁

らる曆學は聖祖の典に倣ひ西僧を用ひて天文曆數を明にせしむ時憲曆の著、亦、帝の朝に成れり又、英人を延き火器を鑄造せしめ厚く外人を待てり時に英商、廣東に於て盛に互市を開き鴉片を販賣せしかは帝、其荼毒を慮り之を燒き其賣買を嚴禁したり帝在位六十年にして崩す（我紀元二千四百五十六年寛政九年）改元して乾隆と云ふ其治蹟康熙と云へ稱す太子永琰立つ是を仁宗と稱し年號を嘉慶と云へり

第三章　嘉慶の紛擾

白蓮教徒

教匪の騷擾　國初より乾隆に至るまては武威四方に輝き內政善く整ひたりしも帝の朝に及ひ士氣次第に文弱に流れ內亂、續いて起るあり其先つ反抗せしものを白蓮教徒と爲す初め高宗の末年、西南には諸苗、及、教徒の反を謀るあり〳〵も忽ち鎭服せしか帝の朝に至り教魁王三槐、徐天祿の徒、再興して河南、四川、陝、甘肅の民を煽動し勢甚、猖獗なりしかは朝廷始めて鄉勇を募り綠旗の闕を補ひ額勒登保、之を以る七年を歷て纔に之を平けたり又、海盜蔡牽、朱濆の二人相結托して臺灣に據り閩浙、沿海に出沒せしか李長康、許松等、之を征服せり尋て河南に天理教徒、李文成、林清等の不軌を圖るあり宦者劉金、之に內應し賊をして大內に逼らしめしか其亂、鎭定に歸せし後、又、回部の叛するあり

海盜蔡牽朱濆

天理教徒

張格爾の反及宣宗の即位

回部の叛服　初め高宗の朝に於て布那敦の叛せしときその子薩木克は逃れて敖罕（カーカン）に在りしか帝の時に及ひて次子張格爾（チャンキル）は南路參贊大臣斌靜の荒淫にして回人の心を失へるに乘し經を誦し福を祈るを以て衆心を得、遂に邊に寇せり時に帝崩し其子宣宗立ち道光と改元せり此時張格爾は

回部の平定

敖罕の酋と結ひ回城を陷れ喀什噶爾を蹂躙せり帝乃ち楊遇春、武隆阿等をして之を征せしむ張格爾戰破れ生禽せられしも其家族散逸するあるを以て帝乃ち敖罕の互市を絶ち之を禽せしめんとせり敖罕之を怒り喀什噶爾葉爾羌を攻圍し叛服常無きを以て復、互市を許し遂に喀什噶爾、參贊大臣をして葉爾羌に駐屯せしめ回部を治めしめたり當時

猺苗の騷擾

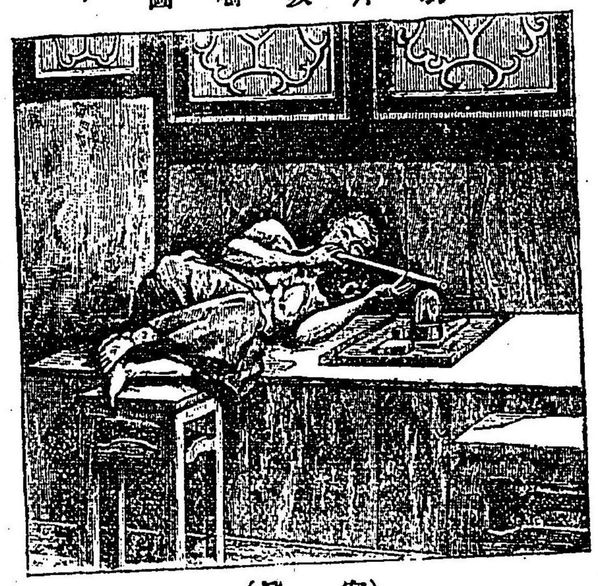
楚、粤の奸民、天地會なるものを設け湖南、猺苗の牛穀を却奪せしかは猺魁、趙金龍、趙福方等、巫蠱を以て其衆を惑はし之か復讎を爲んと稱し西南の地を騷かせしか其亂忽ち平定せしも外、鴉片の事より英國と釁を開き内、髮賊の禍を構え國事日に多端に赴けり

第四章　清室内外の禍

販烟の由來

鴉片の戰爭　英人は國初以來葡萄牙、和蘭、西班牙の商船東方に往來する稀少なるに乘し己れ印度に商會を設け曩に聖祖の鴉片を嚴禁せしにも拘はらす益、内地に販賣せしかは嘉慶の朝、其害を稔知し復、之を燒滅せしも人民の嗜好益、甚しきを以て諸外人、亦、之か貿易を事とし利を搏するに至れり是に於て黃爵滋林則徐等之を禁せんことを請へり帝之を嘉みし林則徐をして兩廣、總督と爲し其事を決行せ

鴉片吸喫圖



（寫眞）

林則徐の燬函

英人廣東乍浦舟山を陷る

伊里布琦善の任命及林則徐の褫奪

しむ林則徐、乃ち虎門（廣東省廣州府治）各等に礮臺を建設し販烟禁止の令を通商諸國に布きけり然るに販烟隱然行はるゝを以て遂に英商をして鴉片數千函を出さしめ之を燒却し且、諸國の通商は舊に由るも惟り英國の貿易に至りては之を停止したり（帝の道光十九年我天保十年）英國、是に於て其狀を聞き乃ち戰艦を派して廣東に來り謂つて曰く互市を復せされは之を干戈に訴へんと林則徐應へす益、兵を嚴にし其侵寇に備へり英人更に戰艦を增遣し廣東、舟山、乍浦を陷る其將莫里遜白河口に來り書を朝廷に贈り互市を復せんこせり帝乃ち直隸總督伊里布、兩廣總督琦善をして莫里遜と廣東に會し和を議せしむ琦善、以爲らく事の端緒は林則徐に由れりと乃ち之か職を褫ひ伊犂に貶し悉く其施設に反し兵備を撤し英將を饗應慰諭し遷延、事を怠らさんこせり已にして戰

林則徐の再用

吳淞の陷沒

陳化成の奮死

清英の和約

端復た開け英人再、廣東を取りしかは帝之を怒り伊里布、琦善の職を褫ひ林則徐を再用し皇弟綿瑄親王をして大將軍と爲し之を拒かしむ時に和議說、復、起るも調はす英軍益、進んて厦門、鎭海、寧波等を陷れ吳淞に迫る總督陳化成、事の危きを知り參將周世榮に謂つて曰く吾こ汝こ福薄からす世榮、其故を問ふ曰く戰ふて勝たは上の賞を受けん然らされは名を不朽に垂れん是、福にあらすして何そこ其徒八十餘人こ奮死す年實に七十六英人進んて鎭江を下し南京に迫らんこす帝震恐其敵すへからさるを知り復ひ伊里布を以て乍浦副都統こ爲し欽差大臣耆英こ共に英國公使噗鼎查（ポッチンチャー）に南京に會し償金二千一百萬元を出たし香港を割き其他、廣州、寧波、厦門、上海の五港を開き兩國の互市場こ爲し漸く和を結ひたり（道光二十二年我紀元二千五百二年天保十三年西曆一千八百四十二年）然るに鴉片

販烟の復行

の輸入並に其培養の事に關し之を禁せんとせしかは英人反て曰く縱令ひ若し我國人にして鴉片を輸出せさるも他人代りて之を輸出するならん故に貴朝は宜しく之を公許し以て密商の蔓延を制限すへしと是より販烟復行はるに至ると云ふ後英船臺灣を過き風に値ひ破碎す總兵洪達等命して其乘員を殺戮せしむ噗鼎査之を訴ふ因て洪達の職を解き之に謝す又廣東の民英人を怨み之を放逐せんと謀る英人潛かに戰艦を以て廣東の城砦を襲ひ取る清廷亦之を講し嗣後英國戰艦の港口に泊するを許し不慮に備へしめたり

臺灣廣東の關係

林星沆林則徐の死

當時緬寧回部の地方土匪爭擾せるを以て李星沆林則徐の二人をして剿平せしむ二人當時の名臣を以て稱せらる初め則徐の復ひ召さるゝや左右に謂つて曰く西夷與みし易きのみ終に中國の患を爲さんものは其露國か吾老ひたり君等當に之を見るへきあらんと後長髮賊の亂を討せんとして行て潮州に至り年六十六を以て死す星沆代り行き亦年五十五を以て軍中に卒す時に帝已に崩し宣宗立ちて威豐と改元したり賊勢益猖獗にして其徒四方に蜂起せり之か魁首を洪秀全とす

文宗の即位

髮賊の內亂

洪秀全は廣東花縣の人幼にして孤自ら耶蘇教を奉し鴉牙戰後綱紀の弛廢に乘し天父天兄の語を以て愚民を欺き楊元清馮雲山等と結托し兵を金田に擧け廣西各地を陷れ國號を太平天國と稱し自ら天王と號す其徒皆長髮を蓄ふ故に長髮賊の名あり秀全已に湖南湖北の地を取り進て南京に據り自ら句を宮門に題して曰く獨手擎天重整大明新氣象丹心報國除清外域異衣寇虎賁三千直掃

洪秀全南京に據る

奴婢買賣及弓足の禁制

曾國藩鄉勇を徴募す

清俗弓足圖

（寫眞）

幽燕之地、飛龍九五重開、堯舜之天、と又、奴婢、賣買の制、及、婦人弓足の俗を禁し民心を收攬せり陳玉成、韋昌輝、石達開等の俊傑、之に屬し殆と朝廷を顚覆せんとするに至れり時に刑部侍郎曾國藩は母の喪に丁り湖南の湘鄉に在りしが國難を開らき慨然奮ふて曰く武昌、漢陽は江の上流に在り先つ之を取らされは金陵（南京）復すへからすと自と鄉勇を徴募し江忠源、郭嵩燾と謀り之を簡練して水陸の軍に充つ其兵慓敢、善く功を奏し軍勢大に振ひ遂に各省鄉勇を置くに至れり又、國藩の弟曾國筌、門人彭玉麟、水勇を督して李鴻章は安徽の鄉勇を擧け來り賊を討す其他、親王僧格林沁、李成典、左宗棠等の徒、力を盡し賊を挫く會、賊中內亂して楊秀清、韋昌輝の二人は洪秀全の爲めに殺されたりしかは湖北巡撫胡林翼、黔軍を組織し之に乘し國藩と力を合せ漢陽、武昌、鎭江等を復し進て南京に逼らんとす賊兵拒戰して上海を犯す上海の官民大に驚き力を外人に借り之を掃蕩せんことを上議す

賊の內侵及外國援兵の議

穆宗の即位

當時、帝已に崩し穆宗立ち同治と改元したりしか穆宗は其議を容れ英、米、佛、三國の力を借るに至る又、處士王韜の說を用ひ洋槍隊を編制し米人華爾特、英人戈登の二人をして之を統督せしめ常に勝利を得たり時人之を常勝軍と稱す賊

英米佛三國の援兵及洋槍隊の編制

髮賊の平定

勢次第に衰へ王成、達開の二人先つ生擒せられ秀全、亦、年五十三を以て自殺し其亂始めて平きたり是を同治三年我、元治元年（西暦千八百六十四年）の事とす秀全兵を起してより十五年其間南京に據るもの十二年、十六省、三百餘城、皆其蹂躙陷沒する所と爲る實に希有の內亂たり然れとも秀全の斯く强梁を極めたりしものは蓋、當時朝廷の外、露國の交涉と英佛の來犯とに顧慮せるに因れはなり

英佛來犯の原因

英佛の來犯

曩に鴉片の亂後、朝廷、又、英人と約すらく若し不法の徒、英船內に潛匿するあらは英國官吏は發覺次第、之を捕へて朝廷に引渡すへきは勿論なれとも罪の未た發覺せさるものは英人之を捕縛し審問するも朝廷之を捕縛することを得さるとの條項ありしにも拘はらす髮賊反亂の時に際し廣東總兵府吏葉名琛は恣に國人の英船に傭役せるを捕へ通蕃の罪を治せんとし、事を英國に構へたり英國領事巴篤斯（パルクス）、其條項に違ふを詰り之か傭者の返還を求む名琛應せす此時國人、亦、佛の宣敎師を廣西にて殺せしことありしかは英人更に佛人を誘ひ黃浦を陷れ廣東を焚略〳〵名琛を生擒し進て天津に至る朝廷四百萬元の償金を出し更に通商條約を締結せんとし英佛の師、一時休戰したり（咸豐八年我安政五年西暦一千八百八十八年）尋て英、佛二國の使者は其翌年北京に至り新條約批準を交換せんとして白河に至りしかは國人、亦發砲せるを以て二國之を怒り共に天津港の南北に碇泊し太沽を陷れ天津を攻む朝廷和を入る已にして僧格林沁（ツンゲリンシン）の兵、恣に英佛の軍を擊ちしを以て事、破れ英、佛の兵進て北京に逼り火を圓明苑に放つ文宗、難を熱河（直隸省承德府）に避け皇弟恭親王奕訢をして償金千二百萬元を出たし和を媾せし

英佛天津條約

英佛和議の破裂及文宗の避難

北京條約及露國の斡施

め牛莊、登州、臺灣、潮州、瓊州、漢口を互市場と爲し事、遂に平きたり（咸豐十年我萬延元年西暦千八百六十年）是を北京條約と云ふ二國、亦、朝廷の請を容れ力を合せ髮賊の亂を討平するに至りたり然れども二國の朝廷と和せしは實に露國全權公使伊格那替業福の斡旋に出つるものとす

愛琿條約

露國の東略　露國は曩に尼布楚條約に據り黑龍江の下流を讓與せし以來、之を恢復せんと欲せしか宣宗の朝に至り之を復し恣に朝鮮國境に至る沿海一帶の地を占領し文宗の時に及ひ髮賊、及、英、佛の患あるに乘し私かに兵營、及、移往民を烏蘇里地方に置き布挺丁、木喇福岳福等をして疆界談判を試みしめたり朝廷、遂に黑龍江將軍巴山をして木喇福岳福に愛琿に會し黑龍江を以て露國の疆と爲し黑龍江、松花江、烏蘇里江の貿易を條約したり（咸豐八年我安政五年西暦千八百五十八年）

日露の交渉

伊格那替業福の周旋及露領の延擴

木喇福岳福肖像（寫眞）

是より先、露國も又、布挺丁を我、伊豆、下田港に遣はし我國と條約を結ひ擇捉を我國に屬し已、千島を占領し箱館、下田、長崎の三港を開くことを約したり（我安政二年西暦千八百五十五年）しか是に至り木喇福岳福は亦我品川灣に來り前約を締結し宗谷海峽を以て境界を劃せんと乞ひたり時に露國全權公使伊格那替業福は清國に在りしか英佛の間に周旋し其患を解きしを以て大に清廷の歡心を得國疆を擴め烏蘇里江より興凱江を歷て圖們江に至る東南一帶の地を得ることを約し遂に烏拉地

北京條約及露國の斡施

め牛莊、登州、臺灣、潮州、瓊州、漢口を互市場と爲し事、遂に平きたり（咸豐十年我萬延元年西暦千八百六十年）是を北京條約と云ふ二國、亦、朝廷の請を容れ力を合せ髮賊の亂を討平するに至りたり然れども二國の朝廷と和せしは實に露國全權公使伊格那替業福の斡旋に出つるものとす

愛琿條約

露國の東略　露國は曩に尼布楚條約に據り黑龍江の下流を讓與せし以來、之を恢復せんと欲せしか宣宗の朝に至り之を復し恣に朝鮮國境に至る沿海一帶の地を占領し文宗の時に及ひ髮賊、及、英、佛の患あるに乘し私かに兵營、及、移往民を烏蘇里地方に置き布挺丁、木喇福岳福等をして疆界談判を試みしめたり朝廷、遂に黑龍江將軍穆山をして木喇福岳福に愛琿に會し黑龍江を以て露國の疆と爲し黑龍江、松花江、烏蘇里江の貿易を條約したり（咸豐八年我安政五年西暦千八百五十八年）

日露の交渉

伊格那替業福の周旋及露領の延擴

木喇福岳福肖像（寫眞）

是より先、露國も又、布挺丁を我、伊豆、下田港に遣はし我國と條約を結ひ擇捉を我國に屬し已、千島を占領し箱館、下田、長崎の三港を開くことを約したり（我安政二年西暦千八百五十五年）しか是に至り木喇福岳福は亦我品川灣に來り前約を締結し宗谷海峽を以て境界を劃せんと乞ひたり時に露國全權公使伊格那替業福は清國に在りしか英佛の間に周旋し其患を解きしを以て大に清廷の歡心を得國疆を擴め烏蘇里江より興凱江を歷て圖們江に至る東南一帶の地を得ることを約し遂に烏拉地

俄斯德港を占領するに至れり

内賊の闕乏

同治の刷新　露國交渉已に終り髮賊の亂、亦、全く平定せしを以て曾國藩、李鴻章、左宗棠等の功を賞したりしも内財甚乏しきが爲め捐官令を發し官爵を賣り釐金稅を貨物運輸に課し一時の急に供へたり然れども當時兵制を一變し京城守衛の勁旅を必要とし神機營を組織し長江の水師を增置し船政局を置き又、總理各國事務衙門を統正し且、諸制を歐洲に取り製器操兵の術を更め才俊の子弟をして歐米諸國に留學せしめ守株の陋習を刷新せんとするに至りしものは曾國藩、其人與りて力あり國藩は同治十年我明治四年年六十一を以て死す是歳、我、國使伊達宗城、柳原前光等來り隣好を通し修好條規を締結せり後、三歳を歴て我副島種臣來り條約批準を交換し及、領事官を駐紮し通商の事を辨

兵制及守舊の練習を革新す

曾國藩の死

日本の修好條規

臺灣事件の原因

理し更に琉球、及、備中漂民の事を申理するあらんとせり

臺灣の紛議　琉球は明初以來世、來貢したりしか其國祖舜天王は我、源爲朝の出なりし故を以て亦、久しく我國にも隷屬せり後(明治六年同治十二年)其國王尙泰、我國に入朝し冊封を受け藩王を稱するに至れり其前年琉球の民、臺灣に漂到し生蕃に害せられ尋て其翌年(明治六年)備中の人も亦、生蕃に刼掠せられしかは我、朝廷は副島種臣を遣し之を詰責せしむ清廷謂へらく臺灣は中國の版圖たるも其東部生蕃の居る所は化外の地たりとて言を左右に託し應せさりしかは我國遂に西鄕從道をして師を以ゐ臺灣に至り生蕃を勦誅せしむ清廷其擧を以て修好の意に違ふと爲し征臺の師を撤せんことを求む我、大久保利通、北京に至り恭親王、及、李鴻章等と大に之を論す議調はす利通憤然去らんとす會英公使威德(ウエード)

日本征臺の師

臺灣事件の結局

琉球事件

の調和するありて軍費四十萬兩、郵銀十萬兩を我國に償ひ征臺の師を班へさしめたり是を同治十三年我明治七年の事とす是に於て琉球王は臺灣の事平きしを以て其弟尙弼をして我朝廷に入覲し恩を謝せしむ後、我朝琉球藩を廢して沖繩縣を置き(我明治十二年光緒五年)たり當時琉球の事に關し亦、我國と聊か紛議を生せしも米の克蘭士の調停に由り事遂に平きたり

領事の派遣

臺灣の事、已に定りし後、李鴻章は建議して何如璋を以て欽差大臣とし我國に駐在せしめ又、領事を歐米各國に派遣せしめたり帝、在位十三年にして崩す(同治十三年我明治七年)嗣、無し文宗、后西太后(慈禧)政を聽き定策、其意に在り太后の妹は皇弟醇親王奕訢(宣宗第七子)の妃なれは其子載湉を擁立し尋て光緒と改元せり(我明治八年)是を今帝とす帝時に年僅に四五歲皇叔恭

西太后の定策及今帝の即位

親王奕訢(奕譞の弟)政を攝せり是より一時朝廷には恭親王兄弟の徒互に朋黨を爲し排軋したりしと云ふ

第五章　清室の近況

伊犂談判の原因

伊犂の談判　初め宣宗の朝、張格爾の子孫叛し敖罕酋と結托し回疆を蹂躪せし以來敖罕酋は髮賊の亂に乘し張格爾の子孫と共に回教徒を煽動し喀什噶爾に入り遂に天山、南北路を有せり蓋、露國陰かに之を使嗾すれはなり然るに敖の罕酋天山、南北路、占領の事を露國に告け其承認を求めたれは露國は之を不法とし土耳其斯坦の總督に命し商賈を保護するを名とし兵を伊犂に出たし之を取り遂に敖罕を併有せり

清廷は髮賊の亂已に平きしを以て左宗棠をして回教徒を

左宗棠及崇厚

伊犂の和局及日露の關係

征せしめ、又、崇厚をして全權大使とし露國に使はし伊犂の返還を請求せしむ露國曰く若し清廷にして我、多年伊犂を治めたる資を辨せは其求めに應せんと崇厚乃ち假りに銀五百萬元を償ひて其返還を求め且低計斯河の上流を割與せん事を約して還れり然るに朝廷は張之洞等の議を用ひて崇厚の假條約を咎め之を獄に下し條約を解き左宗棠をして兵を露境に出たさしめんとせり已にして廟謨一變し更に曾國藩の子、曾紀澤をして露國に遣はし九百萬盧布を出たし霍爾果斯河(伊犂河の深流)を以て兩國の境界と爲し遂に伊犂の地を返還せしめ事始めて平きたり是を光緒七年、我、明治十四年(西暦千八百八十一年)の事とす露國、亦、先きに木喇福岳福を以て我國に遣はし宗谷海峽を以て境界を劃せんと請求せし以來益、薩哈連島(樺太)に垂涎せしか我國、亦、遂に之を讓與す

佛人安南を侵す原因

安南三州を割く

黒旗兵

るに至れり實に伊犂談判に先つ四年の事とす

安南の事件　伊犂の談判、局を結ひし後、南方安南の事に關し佛國と干戈を交ゆるに至れり初め安南は阮氏僭立して高宗の封册を受け越南王と稱するは佛人の援助あるに由れり當時、阮氏約すらく事成らは土地を割き其勞に酬いんと然るに阮氏之を與へさるのみならず佛人を猜忌し宣教師を虐殺せし事ありしかは佛人之を怒り兵を以て來り攻む阮氏、遂に邊和、定祥、嘉定の三州を割き和を媾せり後、又、屢、佛人と間隙を生せしか阮氏は更に援を清廷に求め又、髮賊逃殘者の力を借り佛人を擊退せんとせり髮賊は敗後、安南に逃れ來り其部衆二に分れり一を黄旂軍と稱し一を黒旂軍と稱す劉義(字永福)之か首たり是に於て劉義は其徒を指揮し屢、佛兵を苦しめたりしか遂に其破る所と爲りし

佛人安南を保護す

清佛衝突の原因

清廷の議論

清佛の衝突

を以て劉氏は止むを得ず國を擧りて佛國の保護を仰くことを約したり（西暦千八百八十三年光緒九年我明治十六年）然れども國人往、黑旅軍と力を協せ安南を恢復せんと謀れり

清廷狀を聞き李鴻章をして佛國公使に會せしめ安南は清廷の藩屬たるを論議せしめ尋て又、駐佛公使曾紀澤をして其恣に藩屬を侵奪せることを佛廷に詰問せしむ時に清廷には醇親王、左宗棠の徒、佛の不法を怒り戰を主とせり醇親王、李鴻章の徒、之を不可とし廟議遂に二派に分れ醇親王は朝を去るに至れり尋て西太后は李鴻章をして佛國公使に會し和好を議せしむ諒山の清兵其狀を知らず佛人を砲擊せしかは兩國戰端遂に開け佛國は海陸二軍をして清國に向はしむ

佛の陸軍は尼玖里英兒（ニクリアール）之を將ゐ安南に入り鎭南關を破り

清國海軍の失敗

清國陸兵奮戰及清佛の和約

臺灣新疆二省

太原、興化を擣き諒山に逼る劉義、戰破れ逃れ去れり是より先き清廷は力を海軍に用ひ北洋、南洋、福建、廣東の四水師と爲し北洋水師は渤海灣の內外を警め南洋水師は楊子江の海口沿岸を守るを例とせしか是に至り佛の海軍は科爾拔（コルベー）之か將と爲り福州に向ひ清の楊武艦を擊沈し福州、厦門を侵し船政局を焚き澎湖島を占據し勢、甚、盛なり

此時廣西提督馮子材は年七十なりしか其徒王孝驥と力を協せ佛軍を攻め遂に諒山を恢復したり會、佛の廟謨大に變し專ら平和を主とし使臣を遣はす是に於て李鴻章は佛の使臣と天津に於て條約を爲し事全く平きたり（我紀元二千五百四十一年明治十八年西暦千八百八十五年光清光緒十一年）然れとも安南の主權は依然佛國の下に歸せり後、臺灣を省と爲し劉銘傳をして之を撫巡せしめ又、新疆省を新設したりと云ふ

朝鮮自主の原因

江華島狙擊及我公使館の初變

朝鮮獨立の始

朝鮮の關係

安南事件の後、東方朝鮮の紛紜の事より亦、我、日本國と天津に於て條約を締結するあり朝鮮は安南と同じく世祖征服以來世、藩屬の禮を奉せしか清の內外多事なるに及び威令、朝鮮に及はす朝鮮、亦、清廷の命に依らすして我日本、及、諸外國と條規を結ひ修好を爲したり初め我國は屢、使を遣はし隣好を修めたりしも皆其阻拒する所と爲り我國征韓の議屢、起るに至れり既にして我征臺の翌年（明治八年光緒元年）朝鮮人は我雲楊艦を江華島に狙擊せり是に於て黑田清隆、井上馨等、國命を奉して至り議政府の謝狀を得、且、修好條規を約せり其中云へるあり朝鮮は自主の邦にして日本國と平等の權を保有せりと是を朝鮮獨立の始とす後、又、我公使館を襲擊し公使花房義質は僅に身を以て免れ大尉磯林眞三、之に死したり是に於て我國、又、井上馨をして之を

朝鮮黨派の軋轢

鄉政局の賀筵及我公使館の再變

詰責せしめ償金五十五萬圓を得、且、我、兵士をして公使館を護衛することを約したり（明治十五年光緒八年）

然るに當時朝鮮は事大、獨立の兩派、互に軋轢するあり獨立派は其國自主獨立の體面を維持せんとて我日本に依らんとす金玉均、朴永孝等、之か首たり事大派は大院君李昰應、閔台鎬等、之か領袖と爲りて專ら守株の義を取り清廷に依り舊慣を奉せんとせり曾て郵政局を新設し今王（名は熙）の臨賀せるに乘し獨立派は之を機とし兵を擧け大臣閔泳翊等を殺し王意を奉し我日本の守護を乞へり公使竹添進一郎兵を以ひ王宮を守る清將袁世凱、之を聞き事大派を助け遂に王宮を圍み我兵を擊ち公使館、亦、兵燹に罹り公使逃け還り金玉均等來り我に投したり是を日清韓條約の基とす是に於て井上馨は又朝鮮に使し償金十三萬圓を得、且、條約を結

日清天津條約

ひて還れり（我明治十八年光緒十年）

尋て伊藤博文は我朝旨を奉し天津に來り大臣李鴻章と朝鮮の事を論難し遂に盟約を結ひ兩國の兵を撤せしめたり其條約の末に曰く將來朝鮮國若し變亂重大の事件ありて日、清兩國、或は一國、兵を出さんと要するときは應に先つ互に行文知照すへしと是を光緒十一年三月四日、我、明治十八年四月十八日の事とす

清廷の媾和及臺灣の讓與

日清の戰爭　天津條約の後九年を歷て朝鮮、亡命者金玉均來り刺客の殺す所と爲る朝鮮、亦東學黨の內亂を以て來り鎭撫を乞ふ乃ち兵を出たし之を援はんとす我國、亦、天津條約に據り師を朝鮮に派遣し獨立の權義を全ふせしめんとし清國と隙を搆え遂に干戈を交へ海陸共に之を破りしかは清廷恐れ和を媾し遼東、臺灣等を割き軍費二億兩を出たし且、沙市（湖北省荊州府治）重慶（四川省重慶府）蘇州（江蘇省蘇州）杭州（浙江省杭州）の地を以て互市場と爲すを約したり然るに我國は獨、露、佛、三國の言に從ひ遼東を還附せしを以て遂に代償金五千萬兩を支辨し且、臺灣、及、澎湖、諸島を以て我に讓與したり實に光緒二十一年我明治二十八年、紀元二千五百五十五年、西曆千八百九十五年の事とす

中等東洋史 終

頁	行	誤	正
二十一	四	魏	魏。
三十四	十四	襄	曩。
三十四	十二	蓋	蓋。
三十九	十	割注漢	漢。
四十四	十一	匈	匈。
四十九	頭書	州	洲。
五十二	十二	瘁す	瘁ス。
五十八	四	吳通	吳に通。
六十一	二	紀九	紀元九。
六十五	三	度	庚。
	十	度	庚。
	十三	等度	庚亮。
六十六	七	し長	簒し長。
	八	れ	れた。
六十九	五	す	すへき。
	六	門	明。
七十二	六	人心	人の心。
	十	り	りて曰。
七十九	四	郡	群。
八十	九	滅北	滅し北。

頁	行	誤	正
八十二	七	魯	羅。
頭書		魯	羅。
百	二	時の	時に。
百三	七	鄆	鄆。
	十二	檎	擒。
百三十一	頭書	飛ノ	飛の。
百四十一	六	窩	窩。
	十一	察	察。
百五十	八	死す	死したり。
百八十	四	拜	拜。
百八十二	五	先、市	先、布。
百八十五	二	瑪	瑪。
百八十七	八	辨	辯。
百八十九	十三	州	洲。
二百十三	五	僧	僧。
二百十三	十	阮惠	阮惠。
二百二十	一	各等	各處。
二百廿八	十一	將軍樂山	將軍奕山。
二百卅七	五	楊武艦	揚武艦。
	八	協世	協世。

明治三十三年九月十　日印刷
明治三十三年九月十七日發行

不許複製

編纂者　東京市牛込區原町三丁目十九番地　西村豊

發行兼印刷者　仝　日本橋區通三丁目六番地　林平次郎

發行所　東京市日本橋區通三丁目六番地　六合館

87
82

87
82

003312-000-7

87-82

中等東洋史

西村　豊／編

M33

ACC-1736